

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会 (子育て支援団体との意見交換会)	会議場所	保津文化センター
		担当職員	坂田
日 時	平成27年4月23日(木曜日)	開 議	午前 9 時 30 分
		閉 議	午前 10 時 30 分
出席委員	明田 馬場 酒井 奥村 富谷 平本 小松 <西口議長>		
出席者	NPO法人亀岡子育てネットワーク 田中理事長、多胡編集長、石田ひろば担当、 NPO法人アシスト 竹下事業統括部長、キッズバリアフリー 末吉理事長		
事務局	鈴木係長、坂田		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 1名	議員5名(三上、小川、奥野、山本、竹田)

会 議 の 概 要

1 開議

< 明田委員長 >

あいさつ

< 西口議長 >

あいさつ

< 事務局 >

日程説明

< 田中理事長 >

あいさつ

< 末吉理事長 >

あいさつ

< 竹下事業統括部長 >

あいさつ

[出席者自己紹介]

2 (1) 子育て支援団体との意見交換

< 明田委員長 >

子育て支援団体のNPO法人子育てネットワーク、NPO法人アシスト、キッズバリアフリーから、現在の子育てに係る現状や活動取り組み等について、説明を願う。

< 各団体代表者 >

別紙資料に基づき説明

～ 10:09

< 明田委員長 >

それでは、意見交換を行う。

< 馬場副委員長 >

働く女性の労働環境が非常に悪くなっている。ダブルワークの実態はどうか。地域包括支援センター等との連携について、介護の実態はどうか。

< 田中理事長 >

働きたくても働きだせないなど、再就職の課題をよく聞いている。

< 竹下事業統括部長 >

当団体の職員数 80 人のうち、男性職員は 4 人であり、あとは全て女性である。ダブルワークしている方もあり、障害をお持ちのお子さんを持つ親の働く場になっている。地域包括支援センター等と常に連携を行いながら進めている。

< 末吉理事長 >

一人親家庭はダブルワークをしている方が多い。障害をお持ちの子を持つ一人親家庭もあり、障害を持っている子に関わらなければならない時間も多いが、生活費を稼がなくてはならず、貧困に直結してしまう。

< 田中理事長 >

働いている一人親家庭の方から、亀岡市放課後児童会の預ける学年や時間延長などを求める声をよく聞いている。

< 末吉理事長 >

働く場所があり、収入を得ることで生活ができる。一人親家庭だけでなく共働き家庭のことも考えないといけない。亀岡市は京都市に比べて、家を購入しやすいメリットがある。子育てしやすい、働きやすい、家を購入しやすいというメリットを十分に生かさないと亀岡市がダメになる。

< 小松委員 >

「子育て日本一のまち亀岡」としての特色は。

< 田中理事長 >

国が目指しているのは、子育てに係る包括支援センターであるが、私たちが目指しているのは高齢者を含む多世代の「亀岡子育て多世代包括支援センター」である。民間でこのような内容を行っているのは全国にもほとんどない。設立に向けて多くの方を巻き込み、多くの方に自分の事として捉えていただきたい。亀岡は行政と NPO が良い関係だとよく言われる。本日の意見交換も、他市の方から羨ましいと言われた。今後も関係の良さを生かし、「子育て日本一のまち亀岡」を目指したい。

< 竹下事業統括部長 >

生まれる前から高齢者までのトータルサポートを目指して行っている。他市町村でも子どもをクローズアップし、認定保育園を含めた総合的な子どもサポートを行っているが、縦割りであり難民がでている。縦割りを撤廃し、国や行政が考えつかなかったことを民間から発信するのが目玉である。

< 富谷委員 >

人材確保が難しい中で、人員確保の体制は。

< 田中理事長 >

現在整えている最中である。ネットワークを多く持っているので共感していただける方が多く、人材確保は問題がない。

< 末吉理事長 >

元教師や元支援員をされていた方などのネットワークや、ボランティアで協力していただける方が多く、ベテランの力と若い力を連携して進めている。

< 石田ひろば担当 >

当団体の雇用形態として、9時から5時の勤務が無理な方は時間を短く、子どもが大きくなれば時間を延ばすなど、来られる方の子育て支援だけでなく、働く方にとって働きやすい環境づくりを行う子育て支援をしている。そのような点からも人材を確保できる。

< 酒井委員 >

今後も情報交換や現場を見せていただくなど続けていければと考える。色々な先進地を視察し、ワンストップサービスを事業として行っている自治体はあったが、市民有志の方が関わって進めようとしていることは、亀岡の素晴らしいところであり、議会もこれから関わっていきたい。

< 田中理事長 >

亀岡市まちづくり協働推進委員会でも同様の声があった。垣根を越えて出来ればと考えている。

< 西口議長 >

今日は第1回目であり、今後2回目、3回目の意見交換を続けたい。

< 明田委員長 >

本日は時間が短かったが、今後このような機会を設けたい。

< 馬場副委員長 >

今日が第一歩であり、継続して議会と皆さんのネットワークを連携して、暮らしやすい亀岡を目指していきたい。本日はありがとうございました。

~ 10 : 30